

人間ドックデータを用いた非肥満者 NAFLD 発症の臨床予測モデル構築と評価

Nonalcoholic fatty liver disease (NAFLD)はアルコールやウイルス、薬剤を原因としない脂肪肝の総称である。2016年のメタアナリシスでは世界のNAFLD有病率は約25%と報告され、今後も肥満人口の増加に伴って増加すると考えられている。NAFLDは肝炎や肝硬変といった進行性の肝疾患をきたすだけでなく、心血管疾患、2型糖尿病のリスク因子でもあり、重大な健康問題と見なされている。

NAFLDは通常肥満と強い関連を示すが、アジアを中心とした地域では非肥満者においてもNAFLDが12~19%と高頻度に見られ問題となっている。特に体重や腹囲が正常な非肥満者はリスクの自覚が困難であり、発症の見逃しや無自覚の進行リスクにつながりやすいため、そのようなハイリスク者が予防・早期発見できるような仕組みがあることが望ましい。

そこで卒業研究では、非肥満者におけるNAFLD発症の予測モデルを構築・検証し、脂肪肝発症の予防・早期発見へとつなげることを目指す。

データは聖路加国際大学病院附属クリニック予防医療センターの人間ドックデータ(2008年1月1日~2018年12月31日)を使用し、対象者は非肥満者(BMI<25)かつアルコール摂取量が基準値以下(男性:30g/day 女性:20g/day)を満たす患者とした。アウトカムは3年後のNAFLD発症とした。

今回の抄読会では、対象者の適格/除外基準、予測モデルの変数選択について紹介し、今後の解析方針について述べる。

【参考文献】

1. Ewout W. Steyerberg. (2019) Clinical Prediction Models, A Practical Approach to Development, Validation, and Updating [Second Edition] Springer